

女性研究者の現状

Support Office for Female Researchers

学長と女性研究者の懇話会 in 松本

平成24年6月1日(金)
14:40~16:10

松本キャンパスにおいて山沢清人学長と女性教員の懇話会を開催しました。
9名の女性研究者にご参加いただき、活発な意見交換となりました。

山沢 清人 学長

このような懇話会が実現できることを大変嬉しく思っています。研究をする上で一番必要なのは、考え方の多様性であり、研究の深さや広さにも影響を与えます。信州大学が分野融合の研究を進めていく上では、多様性をもった色々な視点で、学部を越えて研究分野を構成することが大事であると考えています。信州大学が一步進む足がかりとなるよう期待しています。



松岡 英子 支援室長

女性が働きやすい職場は、男性も働きやすい職場ではないかと思っておりますので、女性研究者支援は、働きやすい職場環境を作っていくことを目指しています。今までは男性の意見を中心に大学経営がされてきましたが、女性の視点も取り入れた多様な意見を尊重して、素晴らしい信州大学になることを願っています。



女性研究者の現状

- 大学での研究継続の不安を感じていたが、女性研究者支援事業ができたことにより、子育てをしながら働き続けることが楽しくなった。
- 女性研究者支援事業の補助者制度を活用し、たいへん助かっている。
- 小学校に入学した子どもの下校後の「居場所」に困っている。
- 遅い時間の会議に「出られない」と言えず、子どもにかかわる時間を減らさざるをえない。
- 産休を取得した時、他の教員に大きな負担がかかっているが、笑顔で送り出していただいている。実際には、周りの教員は大変だと思う。
- 出産・育児期間中の代替教員の対応が学部によって異なり、個人的に申請することが困難。
- 日本は、アメリカに比べ女性差別の改善が遅れていると思った。
- 男女共同参画のシンポジウム等、事務職員の参加率は高いが、教員の参加率が低い。
- ポジティブ・アクションに女性教員の採用を増やす文言が入っていても、なかなか理解を得られない。

渡辺 裕 理事

全学で施策をしっかり考えて取り組んでいきたいと思えます。「女性教員を積極的に採用している大学、研究と子育てなどの両立ができる大学である」というアピールは重要だと思っています。

山沢 清人 学長

代替教員については、現在、学部それぞれのやり方で行っています。各学部に余裕がない状況の中、大学としてきちんと制度を作っていくと考えています。

- 助言者：渡辺 裕 理事（総務・人事労務・部局間調整担当）
- コーディネーター：松岡 英子 女性研究者支援室長



大学への要望

- 代替教員の確保や夕方5時以降の会議の廃止はぜひ取り組んでいただきたい。
- 安心して結婚・妊娠・出産を行いながら研究を続けていける環境があればと願う。
- 子育て支援だけでなく介護支援の制度も必要。
- 仕事や研究の場面で、女性を対等に扱ってほしい。
- 男性の先生方にも懇話会・セミナーに参加いただければ男女共同参画の視点がより生かされると思う。
- 「信州大学には、単身者やひとり親でも安心して子育てをしていく環境がある」というアピールが大事。
- 学内に学童保育があれば、大学のイメージアップになる。
- 教員が、男女共同参画のセミナー等に全員参加するような形があつてよい。
- 大学運営の意思決定の場に、女性教員が参画し意見を出す機会が必要。
- 産休、育休中に支援していただく同僚の男性教員にも何らかの支援体制があると、子どもを産み育てやすい。
- 各キャンパスに、センター試験中の託児を設けて欲しい。



部局長のメッセージ

人文学部



渡邊 秀夫
人文学部長

1 人文学部は、学部生の約65%が（文化コミュニケーション学科にあっては8割が）、しかもとても元気な女子学生で占められている。教員にあっては、その学生たちに層倍するほどの活力に満ちた魅力的な女性教員に恵まれ、本学が掲げる目標比率を既に達成している訳だが、女子学生の増加に伴い、さらに女性教員の比率があがって行くことが望ましい。しかも、それはそう困難なことではなく、近い将来には実現すると思う。というのも、私の所属する中古文学会（平安時代の文学に関する学会）では、最近の大会での発表者の大部分は女性、しかも男性社会が構築してきた定説・通説に果敢に挑戦し、新たな研究視界を開拓する意欲に溢れている。早晚、この分野の研究者の将来は、かの紫式部や清少納言のように女性によって担われてゆくであろう。

経済学部



徳井 丞次
経済学部長

1 私が参加している日本経済学会でも、この30年間で女性の研究者が徐々に増えてきて、今や小さな研究会などでも女性の研究者が1人も参加しないものは珍しくなっていると思います。私ども経済学部では、20年以上前から女性の研究者が活躍されており、その数はその間に少しずつ増えてきました。このたび、信州大学が大学を挙げて女性研究者比率を高める取り組みをすることになりました。何分、人件費ポイントの制約が年々厳しくなっているうえに、短い期間での目標達成を求められてい

法曹法務研究科



又坂 常人
法曹法務研究科長

1 本大学院の専任の女性教員は、現在実務家教員（弁護士）の方が1名いるだけです。他の法科大学院も同じような状況で、女性教員の数は著しく少ない状況にあります。そもそも法律の世界は女性の比率が低いのです。女性裁判官と弁護士の比率は平成23年で17パーセント、検察官は同14パーセントに過ぎません。本大学院在籍者に占める女子学生の比率は20パーセント弱にとどまっています。男女共同参画の理念を研究者の世界において実現

信州大学における各部局長に女性研究者支援に関するお考えを聞きました。質問項目は以下の2点です。

- Q1. 部局における女性研究者増加の取り組みや意気込み
- Q2. 女性研究者支援室（SuFRé）への要望や期待

その時には、あらためて研究者の男性比率の向上を叫ばなければならないかもしれない。

2 このような支援室を取って設けねばならないこと自体、不自然で不幸なことである。男女共同参画社会——この言葉もいささか違和感を覚えるが——、この世には男と女しかいないのだから、お互いの性差を尊重しつつ、社会参加の場では、等しく協働の志を共有するかけがえのない同僚としてごく自然に向き合える職場となりたいものである。期間限定の目標比率の達成以上に大切なのは、この支援事業が、一過性のイベントに終わることなく、女性の社会進出を容易にする基盤整備が、僅かずつでも着実に進むことにある。個人にとってもまた、社会のさまざまな局面に網の目のようにはりめぐらされた制度や仕組みの内部に潜む無理解と誤解、あるいは無意識裏の因襲的偏見を不断に削ぎおとす機会となれば幸いである。

ることから、容易なことではないと覚悟しているところですが、これから目標達成に向けてしやにむに努力する決意です。

2 大学として女性研究者比率の上昇に取り組む一方で、女性研究者に魅力的な職場作りの第一は、やはり出産、育児に対する環境整備ではないでしょうか。こうした面では、各研究者がそれぞれの専門分野を担ってカリキュラムを構成している大学という職場は、大学の外の人々が想像するよりも、こうした環境整備が遅れていたと思います。大学にとってヒト、カネの資源制約が厳しくなっていく難しい経営環境ではありますが、まさに人事制度を含む知恵の出どころだと思います。

するためには、何としても裾野を拡大する必要があります。本研究科としてもそのために努力し、また、積極的に女性研究者の発掘・採用に努めていきたいと考えております。

2 前に述べたように、まずは裾野の拡大、すなわち女子学生の法学部・大学院進学者の数の増加が必要です。支援室には、学部・大学院と連携し、積極的に女子高校生・大学生・社会人に対し、研究者の世界の素晴らしさをPRするための組織的取り組みを期待します。また、育児・保育にかかる支援体制の整備などが必要であることは論を待ちません。活発な活動を期待しております。

教育学部



平野 吉直
教育学部長

1 教育学部の女性教員は、平成24年10月1日時点で15人（16.7%）の予定です。他学部と比べるとやや高い割合であると思いますが、女子学生の比率は50%を超えていること、多様な専門分野の研究者で構成される学部であること、学生の主たる就職先である小・中学校の現場では男女比がほぼ同じであることなどを考えると、教育学部の女性教員の数はまだまだ少ないと言えます。一方でこのことは、女性が活躍しやすい職場であり、さらなる女性教員の増加を期待できる職場であることも意味しています。本学での男女共同参画の推進を機に、女性教員のワークライフバランスの早期実現を目指して、それらを阻害する要因や状況を把握し、改善し、成果等を広く発信できる学部になりたいと思っています。そうした努力が、結果的に多くの有能な女性研究者の応募・採用につながり、将来性あるバラン

全学教育機構



村上 好成
全学教育機構長

1 人類平等の根源は男女平等であると考えていますので、全学教育機構は女性教員の採用に積極的に取り組んできています。さらに出産し乳幼児を育てる教員には男女に関らず支援を行ってきました。信州大学でトップクラスの女性教員比率がそれを物語っていると思います。全学教育機構で実施している共通教育GPの今年度の募集テーマは「男女共同参画の推進に向けての取り組み」です。それは「男女共同参画」の意識を高めるには大学生という時期が重要と考えられるので、共通教育の授業の中にこのテーマを一部でも取り入れてほしい、と願ったからです。「男女共同参画」に重要と思われる取り組みは、教員、学生に対してこれからも積極的に実行していきます。

スの取れた教育学部になる道を作るものと確信しています。

2 教育学部キャンパスには、幸いにも女性研究者支援室長野分室があります。しかし、一度も中に入ったことがなかったので、このメッセージを書くことをきっかけに勇気を出して訪れてみました。いろいろなお話をスタッフの方々から聞くことができました。これまで男性として入り辛かったというのが本音です。多くの教員が気軽に立ち寄ることができ、女性教員のワークライフバランス実現のために、教育学部にはどのような課題があるのかといった情報共有が学部全体でできるよう、多様な情報発信を続けていただきたいと思っています。また、将来学校現場に立つ学生を対象にした「小・中学校におけるジェンダー問題」に触れる学習の機会や、附属6校園で働く女性教員の支援・相談体制にもご尽力いただきたいと願っています。安心して教育や研究ができる環境整備にご尽力いただければありがたく存じます。

それが人間教育の場である大学の使命と考えるからです。

2 単に女性研究者として勤めているだけでは「男女共同参画」を妨げる種々の要素を実感することはできないと思います。結婚し、出産し、そして育児を夫婦で担っていく過程を経験することにより、女性研究者が男性と平等に働いていくことの厳しさを夫婦共に具体的に実感するはずですが、ですからいわゆる「共働き」で育児を実践している方々の声を男女問わず聞く事が最重要と考えます。その声の中から信州大学としてできる事、自治体に働きかける事等が明確化されていくと考えます。共働きで26年間3人の子育てに追われている一人として「男女共同参画」を推進するSuFRéという組織が信州大学に設置されたことに対し大いに感動しています。これからのさらなる積極的な活動に期待しています。

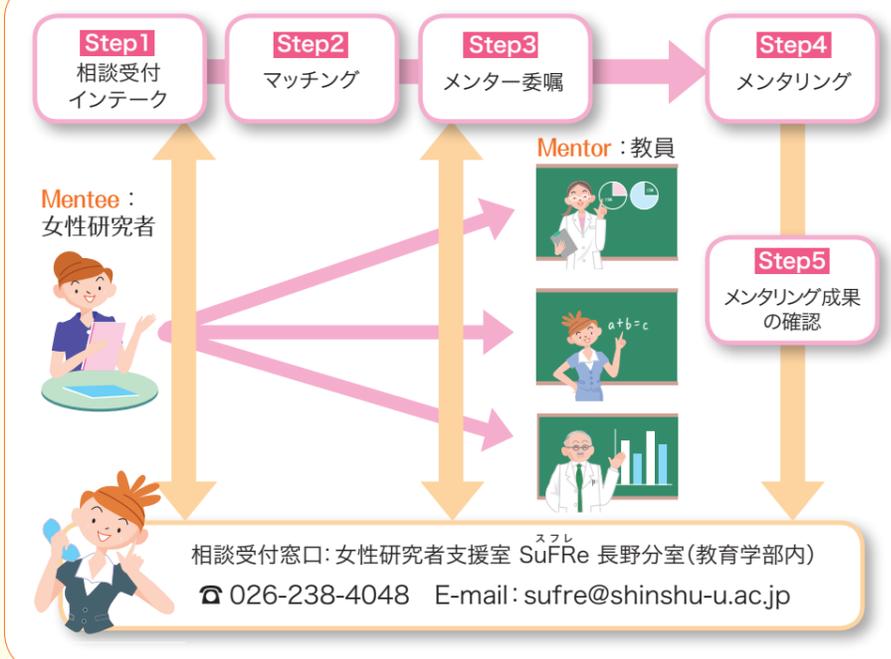
メンターによる相談を受けることができます！

- ◆ 女性研究者支援室が窓口となり、女性研究者が研究活動と生活を両立するうえで抱える問題や、大学でのキャリアを形成していくうえで遭遇する諸問題などについて相談できます。

たとえば…

- ・大学におけるキャリアパスについて
- ・ライフイベント期間中の研究と生活の両立について
- ・研究活動継続について困っていること、悩んでいること
- ・研究補助者制度に関することなど

メンタリングの流れ



- Q 男性は相談できないの？
- A ライフイベントと研究の両立に係ることでしたら、相談することができます。

“メンター”とは…助言者・相談相手。本学のメンター研修を受け“メンター登録”をした教員。
“メンティ”とは…女性研究者・女性大学院生等、相談をする人。

◆メンター研修会を開催しております。詳しくは、<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/> をご覧ください。

信州大学キャリアサポートセンターと共催

～男女共同参画からのアプローチ～
「就活のための輝く人生を歩むために」を開催しました。

6月6日松本キャンパスにおいて、これから社会に出て働こうと思っている学生20名（内男性4名）が参加しました。講師として信州豊南短期大学非常勤講師の小濱知美氏（本学大学院経済・社会政策科学研究科修了）をお迎えし、男女共同参画の視

点から、講師の大学生時代などの実体験を通して、就職活動・キャリアプランに役立つ講義が行われました。

また、女性研究者支援室から男女共同参画を推進するための意識啓発活動など、5つの取組内容について説明しました。



ランチミーティング 開催!

6月22日(金)12:15~12:55 長野(教育)キャンパスでランチミーティングを開催しました。今後、女性研究者の情報交換や交流の場として、各キャンパスで開催します。

◆農学部ランチミーティング

日時:7月18日(水)11:30~12:50

会場:南箕輪キャンパス森林棟4階
コミュニティールーム

対象:女性研究者(大学院生の参加も歓迎します)

メンター研修会を開催します。

第1回

◇日時 7月4日(水)
13:00~15:00

◇主会場

長野(教育)キャンパスSUNS会議室
…各キャンパスSUNS配信

◇対象者: 本学教員

テーマ

女性研究者人材育成のための
メンタリング入門

講師: 渡辺 三枝子
(立教大学大学院 特任教授)

第2回

◇日時 8月9日(木)
13:00~15:00

◇主会場

松本キャンパスSUNS大会議室
…各キャンパスSUNS配信

◇対象者: 本学教員

テーマ

女性研究者のライフイベントと
キャリアデザイン

講師: 宮城 まり子
(法政大学キャリアデザイン学部 教授)

平成24年度(10月~3月期)信州大学研究補助者制度の 利用者募集を開始します。

詳細な情報・必要書類については、7月中旬以降に以下のURLから取得いただけます。

(<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>)

研究補助者制度について

本学的女性研究者が出産、子育てや介護などと研究活動を両立できるよう、また配偶者が大学などの研究者である本学の男性研究者がワーク・ライフ・バランスを保ちながら研究活動ができるよう研究補助者による支援が受けられるものです。

開催レポート(報告)

医学部医学科・附属病院 ~先輩女性医師たちと気軽に話しませんか~

毎年国家試験に合格して誕生する医師の3分の1は女性です。女性医師が使命感を持って仕事を続けていくこと、また出産や育児と仕事を両立させていくことは本人のみならず、わが国の医療体制を支えるという意味でも非常に重要です。しかし将来への大きな希望を胸に医学部に入学してきた女子学生にとっては、臨床研修、専門分野の選択、結婚、出産、育児、研究、留学など、将来のキャリアについてさまざまな不安があります。

歴史的に医師の世界は「男社会」であり、特に大学のような研究・教育機関ではさらに女性教員の比率が低いため、学生は身近なロールモデルになかなか出会えないのが実情です。そこで医学

部では、一昨年から学内の女性医師と女子学生がお茶を飲みながら気軽に話し、生活上のアドバイスを受けたり悩みの相談にのってもらったりする場を作り、学生に参加を呼び掛けるとともに、教員にも自発的な参加をお願いしています。今年度は6月11日(月)の夕方に開催し、7名の女性医師と20名弱の学生(男子学生も参加しました)とが時間の経つのを忘れて自由に語りあうごやかでかつ有意義な会となりました。もちろん一度会って話をするだけでなく、その後は個人的に研究室を訪ねたり、相談をしたりする学生もいて、教員と学生の距離を縮め、学生が早い時期にロールモデルとしての先輩医師に出会う機会になっています。

遺伝医学・予防医学 准教授 櫻井晃洋



6月11日(月)16:30~



お問い合わせ

信州大学 女性研究者支援室(SuFRe)

松本分室(総務部人事課内)
〒390-8621 松本市旭 3-1-1
TEL 0263-37-2167
FAX 0263-37-3314
内線 811-2127

長野分室(教育学部内)
〒380-8544
長野市西長野 6-口
TEL/FAX 026-238-4048
内線 831-4048

E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp
HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

開室時間
9:00~17:00(月~金)



長野分室(教育学部内)案内図

